

ビデオ教材『外国人のための日本の言語景観―初級・生活篇―』の 初級日本語教育での活用

磯野 英治・西郡 仁朗・甲賀 真広

1. はじめに

本研究の目的は、日本に住む外国人生活者、および日本国内外の初級の日本語学習者に情報を提供するため、言語景観を素材として制作したビデオ教材『外国人のための日本の言語景観―初級・生活篇―』について、初級前半の日本語授業で行った実践と教材活用の効果を分析し、ビデオ教材の更なる活用を広く促進することである。言語景観研究の広がりに伴って、言語研究や地域・社会研究だけではなく、言語景観が日本語教育・学習のための素材として有用であることが指摘され、授業実践についても論じられて久しい(磯野2011,2015,2019、鎌田2014、西郡・黒田ほか2016、磯野・西郡2017、李・甲賀2022)¹。また、関連の上級レベルの教材が映像教材や書籍として公開されているだけではなく(西郡・磯野2014、磯野・西郡2019、磯野2020)、日本語教育や多文化共生の観点から「外国人にはどう見えるか(本田・岩田ほか2017)」「やさしい日本語(庵・岩田ほか2019)」「多言語サービス(山川2020)」「日本の言語環境(ロング・斎藤2022)」といった意義のある検討や提案がなされるなど広がりを見せている。

これに対して、本ビデオ教材の位置づけは提案や改善案ではなく、既存の言語景観について外国人、とりわけ定住する日本語能力の高くない人たちにとって生活する上で「分かりにくい点」、および「知っておくべき点」を体系的にまとめている点で、そのアプローチが異なる初級教材である。街を見渡せば一目瞭然のように、多言語化の一方で街中には日本語の単独表記も多く、都市部から離れると公共表示でさえも日本語のみ、あるいは日本語と英語の二言語表記といった状況である。加えて、「多言語サービス」や「やさしい日本語」への変更、改善は意義があり、時代とともに変わっていくだろうが、日本全国、全てのニーズに迅速に応えるのには限界があり、時間と労力、費用がかかると考えられる。本ビデオ教材の新たな観点は、あくまでも現存する言語景観の中で生活する初級レベルの外国人のために必要な点をまとめ、ビデオ教材として制作・公開しているものであり、既存の教材にはない観点と内容で構成している²。そして、ビデオ教材を活用した授業実践とその効果の分析は、公開している当該教材の活用方法の提供、より多くの日本語学習者・教育者に対する活用促進の狙いがある。ビデオ教材の概要、活用、その効果と分析をまとめて報告することによって、具体的な活用のイメージを提供する一助としたい。

¹ 他分野においても、例えば地理学では、当該分野の研究を深化させるために、調査対象範囲を店舗看板以外に拡大すること、景観の作り手・読み手を検討すること、地域差や地名に着目することを提案するために言語景観を活用した調査を行うなど(小田 2024)、その広がりを見せている。

² 本ビデオ教材を制作するために行われた基礎的調査や理論的枠組みの検討は、磯野(2021)を参照のこと。

2. ビデオ教材の構成と内容

ここではビデオ教材『外国人のための日本の言語景観－初級・生活篇－』について、その構成と内容、制作の背景と意図、公開した情報を示す（磯野2021、磯野・西郡2024）。

表1 ビデオ教材の構成と内容

パート	コンテンツ
1. オープニング	ビデオ教材の目的の提示
2. 分かりにくい言語景観の分類と具体例	a. ピクトグラム・記号 b. 使用文字の多様性 c. 語彙のバリエーション d. 読み順 e. 禁止や注意喚起の表現
3. エンディング	日本でのより良い生活のために

現存する言語景観の中で生活する初級レベルの外国人のために必要な視点とは、ビデオ教材のオープニングでも解説している通り「日本で生活する上でどのような言語景観に注目して生活をしていけばよいのかを、普段の日本語学習とは異なる視点」から理解することである。このため、その構成と内容は、一見簡単そうに見えても複雑なもの、日本文化が含まれていてそもそも意図の読みにくいものなど、日本・日本語固有の特徴に関して体系的にまとめている。具体的には、教材の目的を提示した導入としてのパート1（オープニング）、授業や教科学習では学ばない日本・日本語固有の特徴に関して、分かりにくい言語景観の例を体系的にまとめているパート2（分かりにくい言語景観の分類と具体例）、まとめとして日本でのより良い生活のための提案を示したパート3（エンディング）から構成している。本ビデオ教材は、以下のような仕様で現在公開しており、世界中から誰でもアクセスと閲覧が可能な状態になっている。

表 2 ビデオ教材の公開方法

タイトル	外国人のための日本の言語景観－初級・生活篇－
使用言語	映像：日本語＋英語字幕付き 多言語翻訳版：ポルトガル語・スペイン語・ベトナム語・ネパール語・インドネシア語・中国語（簡体字）・韓国語・中国語（繁体字）
出典・公開時期	磯野英治・西郡仁朗 監修、2023 年 11 月
公開方法	You Tube opinion.nucba.ac.jp/~isono/isonokaken2020-2024.html



図 1 公開したビデオ教材

実際の映像は、音声とテロップを含む全体の使用言語が日本語、そしてこれらに対応する英語の字幕が入っている仕様となっている。そして、これとは別にビデオ教材が視聴者に理解できるよう PDF の形でポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、中国語（簡体字）、韓国語、中国語（繁体字）の翻訳資料を上記表2「公開方法」の URL のページ上に付属している。これは、主に労働力として日本社会に住む外国人定住者に対する貢献の観点からの配慮である³。

3. 授業概要

本ビデオ教材を取り入れたのは「INTRODUCTORY JAPANESE 2」、および「INTRODUCTORY JAPANESE 4」という二つの科目である。当該科目は、英語による社会科学系科目で、規定の単位を取得すれば、経営学の学位が得られる「Global BBA

³ 多言語版 PDF に関して、言語の選定は愛知県など外国人労働者の多いエリアの統計を参考にした。このため、ポルトガル語は Português do Brasil、スペイン語は Español で作成している。

英語学位プログラム（経営学）」の中に位置づけられ、学部の正規課程生向けの必修科目に該当する⁴。両科目ともに全て英語で日本語を教える科目として 1 年次に設置されており、受講生は英語ネイティブ、あるいはそれに相当する英語力を有している⁵。授業では、科目開始時のアカデミックオリエンテーション（授業概要の説明、出席や成績に関する注意点など）から、実際の授業における文字の書き順、語彙や文型・文法事項の説明が担当教員によって全て英語で行われている。また、以下の表 3 を見て分かる通り、それぞれ 30 ヶ国、および 23 ヶ国という多国籍の学生が受講している。交換留学生を含む受講者全員が日本語初学者であり、ひらがなとカタカナの文字学習から開始し、本実践を行う時点で、INTRODUCTORY JAPANESE 2 は『まるごと 入門 A1』の第 9 課、INTRODUCTORY JAPANESE 4 は第 18 課まで終了している。それぞれの科目について、その概要、受講生の既習項目を以下に示す。

表 3 授業概要

科目名	レベル	履修人数	国籍と人数
INTRODUCTORY JAPANESE 2	2024 年 9 月から初習でひらがな、カタカナを学習開始	56	フランス 9、アメリカ・イギリス・オランダ・カナダ・ドイツ・パキスタン・フィリピン各 3、アイルランド、インド、インドネシア、オマーン各 2 他各 1 計 30 ヶ国
INTRODUCTORY JAPANESE 4	2024 年 4 月から初習でひらがな、カタカナを学習開始	55	フランス 9、エジプト 8、インドネシア・パキスタン・バングラデシュ各 4、インド・ミャンマー各 3、アメリカ・中国・トルコ・マレーシア各 2 他各 1 計 23 ヶ国

⁴ BBA とは「Bachelor of Business Administration」の略で、MBA 教育の学部版であり、欧米のみならずアジア圏でも標準的な学位プログラムである（<https://www.nucba.ac.jp/gbba/>）。

⁵ 名古屋商科大学では世界 74 ヶ国からの留学生を受け入れているが、当該プログラムに出願する場合、高等学校での 3 年間の授業が 100%英語であった場合を除き、英語を母語としない出願者は各英語試験の公式スコアが必要である。その基準は、TOEFL iBT®・TOEFL iBT® Home Edition で 61 以上、IELTS で 5.5 以上(Overall Band)、TOEIC®で 700 以上、PTE で 50 以上、などである（<https://www.nucba.ac.jp/gbba/admission.html>）。

表 4 既習項目

科目名	漢字	主な文型
INTRODUCTORY JAPANESE 2 (第 9 課)	時・分・半	・テレビを みます。～ おふろに はいります。 ・インドは いま なんじですか。 ・なんじに ねますか。／ おきますか。 ・かいしゃいんです。とうきょうに すんでいます。 - まいにち 7 時 15 分 に おきます。かいしゃに いきます。かいしゃで しごとを します。
INTRODUCTORY JAPANESE 4 (第 18 課)	行きます 来ます 会います 休みます 日本・東京	・日本で なにを しましたか。どうでしたか。 ・ゆうめいな おてらを 見ました。<u>それから</u>、おみやげを 買いました。 ・そばを たべました。たいへんでした。<u>でも</u> おいしかったです。 ・アイスクリームを たべました。おいしかったです。<u>でも</u> ちいさかったです。 ・しんかんせんに のりたいです。／ のりたくないです。 ・いつ、どこに、だれと、どうやって いきましたか。 ・つぎは なにを したいですか。

上記のように、INTRODUCTORY JAPANESE 2 は、ひらがな、カタカナとその使い分け、初歩的な語彙と文型・文法事項の理解、漢字の導入といった内容で、初習から始まり初級前半に入り始めたレベルである。INTRODUCTORY JAPANESE 4 も同様に、初級前半レベルの構造も意味も単純な学習項目である (国際交流基金 2013)。

4. 調査概要

それぞれの授業実践は、2024 年 12 月 13 日にフェイスシートによる受講生のバックグラウンドの情報収集、ビデオ視聴前の学生の日本語や言語景觀に関する意識や知識を明らかにする事前調査、ビデオの視聴、ビデオ視聴後の学生の気づきや知識の増加に関する事後調査の手順で授業を進行した。ここではフェイスシート (表 5)、事前調査 (表 6)、事後調査 (表 7) を以下に示す。なお、いずれの調査も Google フォームで行い、表 5-7 にある通り、質問文は全て英語で提示した。また、フェイスシート、および事前調査は同じ Google フォーム内でセクションを分けて作成しており、事後調査は別の Google フォームを作成した。したがって、2 フォーム・3 セクションで回答をしてもらっている。フェイスシートと事後調査で「Name」「Nickname」を質問しているのは、それぞれ別のフォームだからである。

また、フェイスシート・事前調査の回答者数は 85 名、事後調査は 68 名であった。

調査は「協力の依頼」という形式であったため、回答人数にズレがみられるものの、本研究の初級前半の日本語授業で行った実践と教材活用の効果を分析し、ビデオ教材の更なる活用を広く促進するという目的は果たせると考えている。

表 5 フェイスシート

1.	Name
2.	Nickname
3.	Age
4.	Affiliation/Grade (e.g., GBBA / Exchange Student from [University Name])
5.	Country of Origin/Where You Grew Up
6.	Native Language(s) *Multiple answers allowed
7.	Overseas Stay/Study Abroad History *Multiple answers allowed, e.g., 2 years in Korea, during high school grades 1-2
8.	Foreign Languages and Proficiency Levels (e.g., JLPT N5, TOEIC 750, The Korean Language Proficiency Test Level 2)

表 6 事前調査

a.	What characteristics of Japanese language do you know? (e.g., characters, sentence structure, etc.)
b.	How aware are you currently of Japanese language in public spaces (linguistic landscape)? Please select one. *Linguistic landscape refers to all written language that naturally visible while walking, such as signs, posters, notice boards, stickers, etc. (including pictograms and symbols).
c.	(For those who selected options 2-5 in question b) What aspects of the linguistic landscape do you notice? (e.g., shapes and color of characters, words, expressions, etc.) Please be specific.

表 7 事後調査

	Name
	Nickname
1.	After watching the video materials, did you gain any new perspectives or knowledge different from regular Japanese learning, or did you find anything useful? Please select one.
2.	For those who selected options 2-5 in question 1, please respond to the following: If you found it useful, what was it? Also, please describe any changes in your thoughts or impressions about the Japanese language.
3.	Please write if there is any additional information you would like to know. (Free response)

5. 授業の実践と分析

ここではまず、授業の流れを概説する。初めに調査当日の INTRODUCTORY JAPANESE 2/4 の受講生に対して調査の説明を行い、その上で、上述のフェイスシート、および事前調査に回答してもらった。全員の回答が済んだことを確認し、ビデオ教材『外国人のための日本の言語景観―初級・生活篇―』をスクリーンに投影した。視聴中は適宜、教員による補足説明も英語で行い、ビデオ教材視聴後、事後調査に回答してもらうという流れであった。

次に、それぞれの調査結果について分析する。なお、既述の通り、質問および回答は全て英語で行われている。しかしここでは、本稿の読みやすさを考慮し、実際に使用した／された英語に加え、筆者らによる日本語訳も併せて提示する。

事前調査の質問項目「a. What characteristics of Japanese language do you know? (あなたの知っている日本語の特徴は何ですか。)」では、多くの回答が文字についてのコメントであった。例えば、“Hiragana, katakana (ひらがな、カタカナ)”、“Hiragana, Katakana, what we learned in class. (ひらがな、カタカナ、授業で学んだこと)”などのコメントがみられた。他には文法について“the verb is at the end of a sentence (文の最後に動詞が来ます)”や他言語と比較して“Sentence structure is similar to Chinese and kanji too. Some characters also appear in Thai. (文の構造は中国語に似ており、漢字も同様です。一部の文字はタイ語にも見られます。)”、日本語の敬語についてのコメント“Japanese has a complex polite language (日本語には複雑な敬語があります)”などもあった。

質問項目「b. How aware are you currently of Japanese language in public spaces (linguistic landscape)? Please select one. (現時点で街中の日本語(言語景観)について、どれくらい意識していますか。いずれかを選んでください。)」では「1. Not aware at all (全く意識していない)」から「5. Very aware (とても意識している)」の5段階から選択してもらった。結果は以下の通りである(図2)。

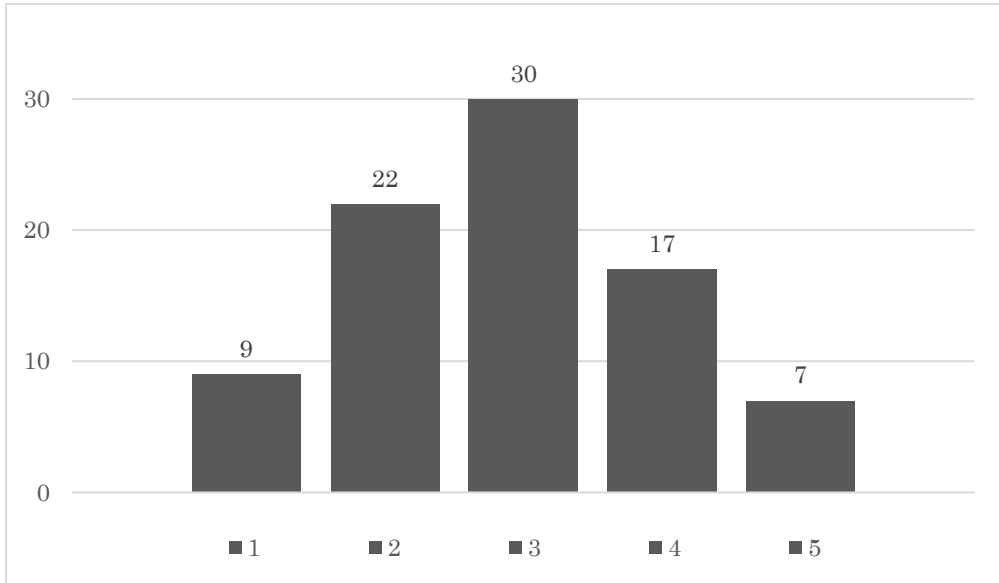


図 2 事前調査 b への回答結果

図 2 を見ても分かる通り、「1. Not aware at all」から「5. Very aware」までそれぞれ回答されているが、回答者数の多い 2・4 で全体の回答の約 81.2% を占めていることから、ビデオ視聴前の段階では、多くの学生は全く意識していないわけでもなく、強く意識しているわけでもないということが窺い知れる。

質問項目「c. What aspects of the linguistic landscape do you notice? Please be specific. (街中の言語景観について、どのようなことを意識していますか。具体的に書いてください。)」では、文字の形や色、そして「止まれ」や「危ない」のようなよく目にするものについての言及がほとんどであり、「どういう意味か」や「どういうことが意図されているか」という理解にまでは至っていないことが分かった。回答例は次の通りである。“The shapes of the characters and words, I can read them and tell between hiragana and katakana but I can’t read kanji (文字や単語の形は読めて、ひらがなとカタカナを区別することはできますが、漢字は読めません。)”、“I mainly notices signs, billboards and shop names with Japanese or in rare cases, english characters in it. Many of them has Kanjis on them, but some of them also have Hiragana or Katakana. (主に気づくのは看板、広告、そして店の名前で、日本語やまれに英語の文字が含まれています。多くの場合、これらには漢字が使われていますが、ひらがなやカタカナも含まれていることがあります。)”、“alot of kanji’s lots of “止まれ” that I learnt I memorized from memory. (たくさんの漢字があり、「止まれ」のようなものは、記憶から覚えました。)”、“Colors and word, 危ない for example (色や言葉、例えば「危ない」のようなものです。)”

ここからは事後調査について述べていく。

事後調査の質問項目「1. After watching the video materials, did you gain any new perspectives or knowledge different from regular Japanese learning, or did you find anything useful? Please select one. (ビデオ教材を視聴した後、通常の日本語学習とは異なる新しい視点や知識を得られましたか、それとも何か役立つ点がありましたか？いずれかを選んでください。)」では、「1. Not at all (全くなかった)」から「5. Very much so (とてもあった)」の 5 段階から選択してもらった。結果は以下の通りである (図 3)。

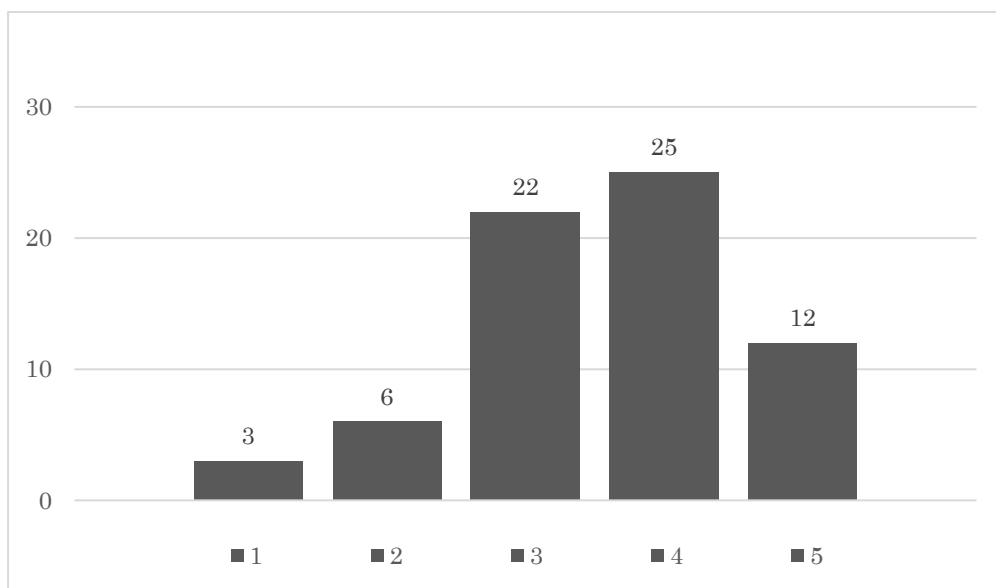


図 3 事後調査 1 への回答結果

1 を選んだ人が 3 名、2 が 6 名、3 が 22 名、4 が 25 名、5 が 12 名という結果であった。回答者数の多い 3-5 が全体の約 86.8%を占めていることから分かる通り、ビデオ教材の視聴を通じて新しい視点や知識を得たり、役立つ点があったということである。つまり、本ビデオ教材は少なからず学習に役立つと言えよう。

それでは、質問項目 1 を踏まえ、実際にどのようなことを得ることができたかということを質問項目「2. If you found it useful, what was it? Also, please describe any changes in your thoughts or impressions about the Japanese language. (もしあったとしたら、どのようなことですか。また、自身の日本語に対する考えや印象が変わった場合も併せて書いてください)」からみる。“It is a difficult language but signs make it easier (日本語は難しい言語ですが、看板があると少し楽になります。)”や“I found it useful because for me it's really hard to read and understand road signs, posters and advertisements specially when it comes to safety and staff. After seeing this I will be able to at least interpret what this signs means. (私はこれを役立つと感じました。なぜなら、特に安全や重要な事項に関する道路標

識やポスター、広告を読むことや理解することがとても難しかったからです。これを観たことで、少なくともこれらの標識が何を意味しているのかを解釈できるようになりそうです。)”、“I liked that there was practical everyday information. It is also good information to learn as it can be helpful for safety and awareness of your environment. (日常生活に役立つ実用的な情報があった点が良かったです。また、安全や周囲への注意を促すための知識としても役立つ内容でした。)” というコメントがみられた。これらに鑑みれば、ビデオ視聴前よりも看板や標識などの言語景観から情報を読み取れるようになったといえるだろう。

その他にも “I learned about how it’s important to think of the context when looking at certain signs such as with the catfish, it doesn’t make sense on its own but with context it makes sense

(例えば、ナマズの看板のように、特定の看板を見るときに文脈を考えることが重要だと学びました。それだけでは意味が分からなくても、文脈があれば理解できます。)”

というように社会や文化と言語景観が関係しているということや、“I came to know that there are many variations of the same words in linguistic landscape. Like you can write the word restaurant in Hiragana, Katakana, Kanji or even in a mix of everything. Also, the signs have variations also. It changes my impression of Japanese language in a good way. I came to know that Japanese language is a diverse language and it can be used in every different way possible.

(同じ言葉でも言語景観の中で多くのバリエーションがあることを知りました。例えば、「レストラン」という言葉をひらがな、カタカナ、漢字、さらにはそれらを混ぜた形で書くことができます。また、看板にもバリエーションがありました。このことは、日本語に対する私の印象を良い意味で変えました。日本語が多様性に富んでいて、さまざまな形で使える言語であることを知りました。)” というように言語景観から日本語の特徴を理解できるということが分かったということであろう。

このように、質問項目 2 からは本ビデオ教材からどのような新しい視点を得ることができたか、役立ったかを知ることができた。

では最後に、質問項目「Please write if there is any additional information you would like to know. (追加で知りたい情報があればご記入ください。)」という自由回答欄について触れる。自由回答欄であるため “N/A (なし)” などの回答もいくつかみられたが、“I just find it sad we didn’t get to see this video at the beginning of the year. Since we’re supposed to leave Japan soon, it could have been more useful in our daily life if we knew about it sooner. (年初にこのビデオを観なかったことが残念です。私たちはもうすぐ日本を離れる予定なので、もっと早くこのことについて知っていれば、日常生活でより役立っただろうと思います。)” といった「もっと早く観たかった」という交換留学生のコメントや “It would be nice to be able to learn how to recognize different linguistics as foreigners who don’t know anything about Japanese culture. (日本文化について何も知らない外国人として、さまざまな言語的特徴を認識する方法を学べると良いと思います。)” といった日本語への関心を示すきっかけとなったことが窺えるコメントがみられた。つまり、ビデオ教材が日常生活に役立てられそうなこと、日本語へのさらなる興味を惹くきっかけと

なり得ることが分かった。それに加え、“Please provide more this kind videos that applied in real life. (実生活に役立つこのようなビデオをもっと提供していただけると嬉しいです)” という更なるビデオ教材を待ち望む声もみられた。

このように、本実践を通じて学習者は、新たな観点からの学びを得ることができたことが明らかになり、さらにはこうしたビデオ教材が広く提供されることを期待していることも分かった。

6. おわりに

本稿では制作したビデオ教材『外国人のための日本の言語景観—初級・生活篇—』について、ビデオ教材の概要、活用、その効果と分析をまとめて報告した。その結果、本教材の使用により、初級の日本語学習者にとって教科書では学ばない、しかしながら生活する上で「分かりにくい点」、および「知っておくべき点」についての知見が広がったことがその数値から確認できた。また、ビデオ教材を視聴した学生達のコメントから、当該ビデオ教材が日本で生活する上で役立つこと、必要なことが分かり、さらに類する教材や情報のさらなる提供への期待も窺うことができた。

本ビデオ教材のように、既存の初級教材にはない観点と内容で体系的に構成され、YouTube に公開することによって、世界中からの自由なアクセスを可能にしている視聴覚教材はない。そのため、今後は地域の外国人支援施設や日本語ボランティア教室への情報提供、他の SNS の活用を通じた世界に向けた更なる発信を行っていきたいと考えている。

参考文献

- 庵功雄・岩田一成・佐藤琢三・柳田直美 (2019) 『〈やさしい日本語〉と多文化共生』、ココ出版
- 李舜炯・甲賀真広 (2022) 「JFL 初級日本語学習者のアクティブラーニングを促す『言語景観調査』の有効性」『日語日文学』第 93 輯、大韓日語日文学会、pp.69-89.
- 磯野英治 (2011) 「韓国における日本語の言語景観—各都市の現状分析と日本語教育への応用可能性について—」『世界の言語景観 日本の言語景観—景色のなかのことば—』、内山純蔵 監修・中井精一・ダニエル ロング 編、桂書房、pp.74-95.
- (2015) 「身近にある言語景観を素材とした多文化クラスにおける教育実践」『日本語研究』第 35 号、首都大学東京・東京都立大学 日本語・日本語教育研究会、pp.193-200.
- (2019) 「日本語教育に活用可能な言語景観と教育実践—理論と方法—」、中井精一・ダニエル・ロング 監修、李舜炯 編 『都市空間を編む言語景観』、中文出版社 (韓国大邱)、pp.183-206.
- (2020) 『言語景観から学ぶ日本語』、大修館書店
- (2021) 「多文化社会への支援に資する言語景観を活用した初級日本語教育教材開発のための基礎的調査」『日本語研究』第 41 号、首都大学東京・東京都立

- 大学 日本語・日本語教育研究会、pp.57-68.
- 磯野英治・西郡仁朗 (2017) 「ビデオ教材『東京の言語景観ー現在・未来ー』の公開と教育実践」『日本語教育』166 号、日本語教育学会、pp.108-114.
- 監修 (2019) ビデオ教材『言語景観で学ぶ日本語』、2017 年度～2019 年度科学研究費若手研究(B)研究課題番号 17K13490 「言語景観を教材とした社会文化的理解を目指す内容重視型日本語教育の研究」(研究代表者：磯野英治)
(https://youtu.be/qB0-eSC_yUQ)
- 小田匡保 (2024) 「東京都世田谷区 駒沢大学駅周辺の言語景観ー特に景観中の地名表示に着目してー」、『駒澤地理』第 60 号、駒澤大学文学部地理学教室・駒澤大学総合教育研究部自然科学部門、pp.21-39.
- 鎌田美千子 (2014) 「言語景観に着目した漢字テキスト作成の実践と課題ーPBL の手法に基づいてー」『日本語教育方法研究会誌』Vol.21.No2、日本語教育方法研究会、pp.50-51.
- 国際交流基金 編 (2013) 『まるごと 入門 (A1) りかい』、三修社
- 西郡仁朗・磯野英治 監修 (2014) ビデオ教材『東京の言語景観ー現在・未来ー』、東京都アジア人材育成基金 (https://www.youtube.com/watch?v=NHV338g_NBo).
- 西郡仁朗・黒田史彦・福田寺紫陽・市川紘子 (2016) 「東京の言語景観と留学生から見た多言語対応状況ー2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けてー」『人文学報』第 512-7 号、首都大学東京、pp.95-111.
- 本田弘之・岩田一成・倉林秀男 (2017) 『街の公共サインを点検するー外国人にはどう見えるかー』、大修館書店
- 山川和彦 編 (2020) 『観光言語を考える』、くろしお出版
- ロング ダニエル・斎藤敬太 (2022) 『言語景観から考える日本の言語環境ー方言・多言語・日本語教育ー』、春風社

付記

本稿は、2025 年 3 月に桜美林大学で行われた日本語教育方法研究会第 64 回研究会で発表した「ビデオ教材『外国人のための日本の言語景観ー初級・生活篇ー』の活用」(磯野・西郡・甲賀)を加筆、修正したものである。貴重な意見やアドバイスをくださった方々に感謝申し上げます。

また、本稿は、2020 年度～2024 年度科学研究費(若手研究)研究課題番号 20K13093 「言語景観を活用した多文化社会への支援に資する内容重視型初級日本語教育教材の開発」(研究代表者：磯野英治)の成果の一部である。

(いその ひではる・名古屋商科大学 国際学部)
(にしごおり じろう・東京都立大学 プレミアム・カレッジ)
(こうが まさひろ・名古屋商科大学 国際学部)